

論文タイトル

PS不良，脳ヘルニア合併転移性ALK肺癌に脳腫瘍摘出，アレクチニブ  
が著効した1例

著者名

高尾 智彬<sup>a</sup>

穴井 諭<sup>a</sup>

久末 順子<sup>a</sup>

高木 陽一<sup>a</sup>

原 直彦<sup>a</sup>

福山 聡<sup>b</sup>

所属機関

<sup>a</sup>医療法人 原三信病院 呼吸器科

<sup>b</sup>九州大学大学院医学研究院 胸部疾患研究施設

## 要旨

症例は56歳，非喫煙女性．咳嗽を主訴に受診し，多発脳肺転移を伴う右上葉肺腺癌（cT1cN2M1c, Stage IVB）の診断となった．脳ヘルニア合併，PS 3と全身状態不良であったが，性別・喫煙歴・画像所見からドライバー遺伝子変異陽性肺癌の可能性があり，除圧目的の開頭腫瘍摘出術，全脳照射を行った．手術検体からALK融合遺伝子陽性と判明し，アレクチニブ投与を開始し著効した．PS不良多発脳転移肺癌症例では，分子標的薬導入が期待される場合，脳ヘルニア解除など必要時は積極的に外科治療を考慮すべきである．

キーワード

ALK融合遺伝子陽性肺癌，ドライバー遺伝子変異，PS不良，脳転移，  
脳ヘルニア

ALK-rearranged lung cancer , Driver gene mutation , Poor  
performance status, Brain metastases, Brain herniation

短縮タイトル

PS不良脳肺転移ALK肺癌に集学的治療を行った1例